

主催 熊本学園大学 水俣学研究センター

毒物が胎盤をとおして胎児に移り
水俣病が起きていることを立証したのは
原田正純先生だった
プラセンタバリアは毒物を通さないという定説が覆った
その結果、正式に認められたのは
1962年11月の認定診査協議会だった
それから50年
胎児性水俣病を胎児期に母体内において
有機水銀の暴露を受け発症した
水俣病患者をさすとすれば
現在認定されている胎児性の患者数は
氷山の一角にすぎない

シンポジウム

胎児性水俣病が問いかける

——公式認定50年後の今日から

2013年

2月23日(土)

熊本学園大学 14号館1階
高橋記念ホール

基調講演：花田昌宣（水俣学研究センター長）

シンポジウム：斎藤恒（木戸病院 名誉院長）

*登壇者は予定 宮部修一（熊本学園大学非常勤講師）

伊東紀美代（水俣病互助会 事務局）・田尻雅美（水俣学研究センター 研究助手）

坂本しのぶ（胎児性水俣病患者）・古山知恵子（胎児性水俣病患者）

2月24日(日)

水俣市公民館 2F ホール

映画上映：「もっこす元気な愛」監督 寺田靖範 / 出演 倉田哲也ほか

講演：倉田哲也（くまもと障害者労働センター 代表）

東俊裕（内閣府障がい者制度改革推進会議 担当室長）

発言：患者家族・支援者

問い合わせ先

熊本学園大学 水俣学研究センター

TEL 096-364-8913・FAX 096-364-5320

E-mail: minamata@kumagaku.ac.jp

2/23 13時00分開場
入場無料

基調講演 13:30～14:30

花田昌宣（水俣学研究センター長）
胎児性水俣病患者と水俣学の課題

シンポジウム 14:30～17:30 *登壇者は予定

齋藤恒（木戸病院 名誉院長）
新潟における胎児性水俣病～発見初期から現在～
宮部修一（熊本学園大学非常勤講師）
胎児性水俣病患者 湯ノ見分校の記録から
伊東紀美代（水俣病互助会 事務局）・田尻雅美（水俣学研究センター 研究助手）
胎児性水俣病患者の現在の暮らし
坂本しのぶ（胎児性水俣病患者）・古山知恵子（胎児性水俣病患者）
現在の暮らしと将来への希望

会場 熊本学園大学 14号館 1F 高橋記念ホール
熊本市中央区大江 2-5-1



2/24 10時00分開場
入場無料

映画上映 10:30～12:00

「もっこす元気な愛」ドキュメンタリー
監督 寺田靖範 / 出演 倉田哲也ほか

講演 13:00～15:30

倉田哲也（くまもと障害者労働センター 代表）
障害者の暮らし～地域での自立生活～
東俊裕（内閣府障がい者制度改革推進会議 担当室長）
社会の中の障害者：現実と制度改革

発言 15:30～17:00

患者家族・支援者

会場 水俣市公民館 2F ホール
熊本県水俣市浜町 2-10-26

*当日問い合わせ先：水俣学現地研究センター 0966-63-5030



ある日の団欒。大事な一人娘が「紹介したい男性がいるから、今度会ってください」と言い出しました。「嗚呼、ついにこの日が来たか」と期待に胸躍らせ、その日を待ちます。そして、いよいよご対面。しかし…。紹介された男は、なんと重度の障害者。さて、あなたならどうしますか？